



統計スポット情報

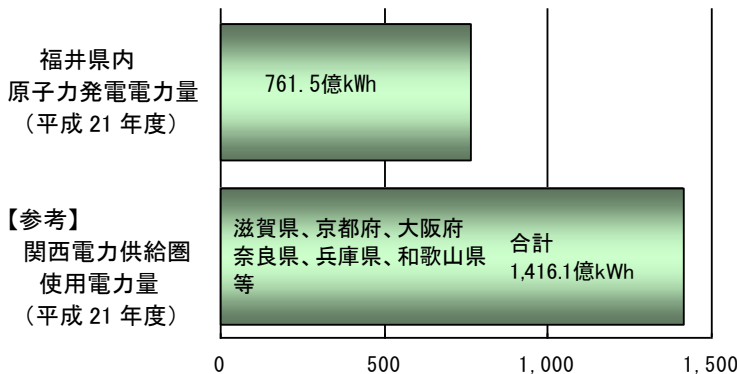
— 福井の電気事情 —

今年の夏は節電に取り組む夏になりそうです。そこで今回は福井の電気に関する統計を集めてみました。



関西圏の電力の半分強を福井県が供給

図1 関西電力供給圏内使用電力量と福井県原発発電量



関西電力供給圏の使用電力量と福井県内の原子力発電所発電量を比較すると(図1)、福井県は関西で使用する電力量の半分強をまかなっていて、関西にとって重要なエネルギー供給県であることが分かります。

福井県の発電量の約9割は原子力によるものです。平成22年度の日本全体の原子力発電所発電量のうち、福井県の占める割合は26.6%と、1/4を超えており、本県は日本のエネルギー政策に大きく貢献していると言えます。

図2 原子力発電所の県別発電量構成比

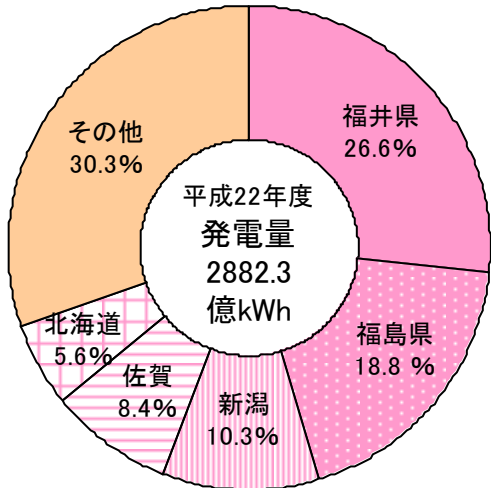
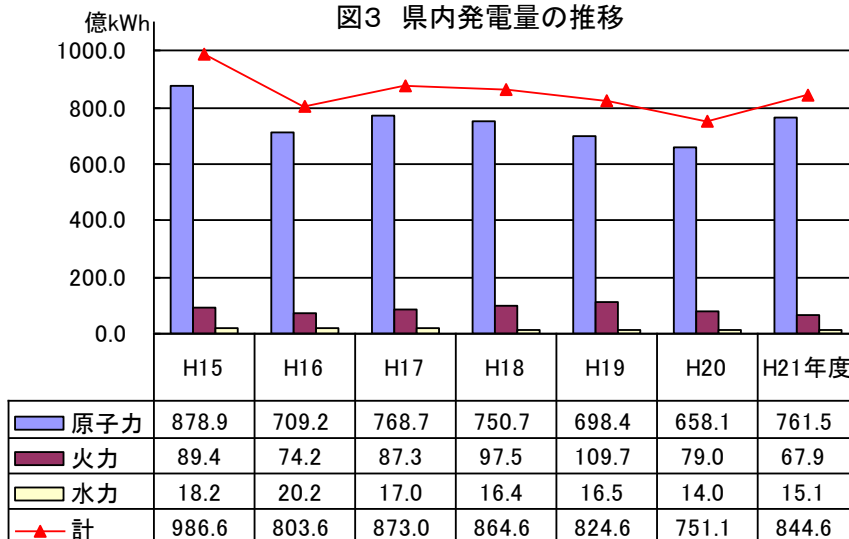


図3 県内発電量の推移



資料: 福井県原子力安全対策課、電気事業連合会統計調査委員会「電気事業便覧」、福井県統計年鑑

電気の消費量も多い福井

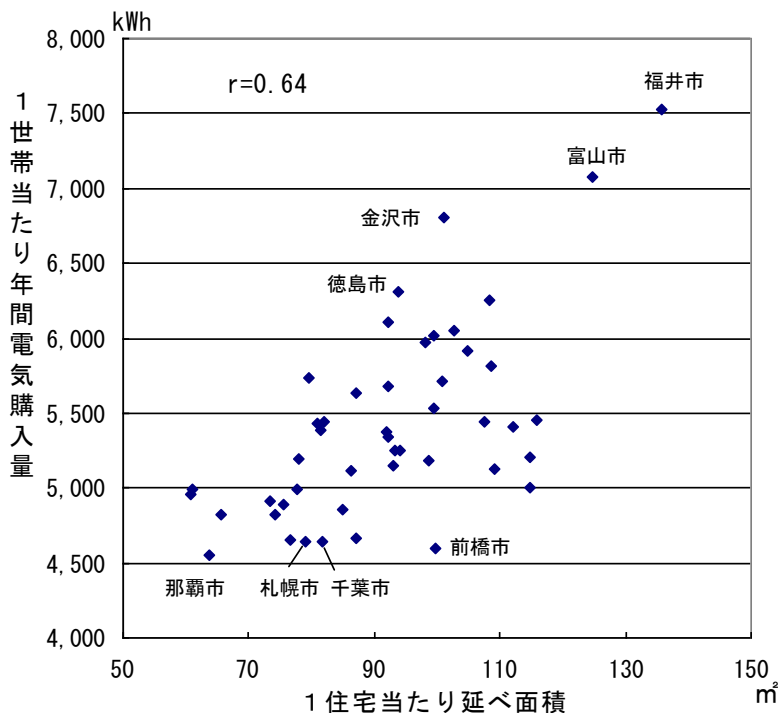
このように、たくさんの電気をつくっている福井県ですが、実は消費量も多いようです。家計調査(総務省)によると、福井市における1世帯当たりの1年間の購入数量は7,529kWhで、都道府県庁所在市別(川崎市、浜松市、堺市、北九州市を含む51市)のランキングをみると1位となっています(表1)。また、2位の富山市、3位の金沢市も合わせ、北陸地方は全国的に電気の消費量が多いようです。

表1 1世帯当たり年間電気購入量※

| 順位 | 都市名 | 電気(kWh) (2人以上世帯) |
|-----|-----|---------------------|
| 1位 | 福井市 | 7,529 |
| 2位 | 富山市 | 7,077 |
| 3位 | 金沢市 | 6,802 |
| 4位 | 徳島市 | 6,306 |
| 48位 | 千葉市 | 4,638 |
| 49位 | 札幌市 | 4,637 |
| 50位 | 前橋市 | 4,597 |
| 51位 | 那覇市 | 4,557 |

※表中の年間購入量は、総務省「家計調査年報」に掲載されているH20~H22年結果の平均

図4 家庭の電気購入量と住宅の広さの関係



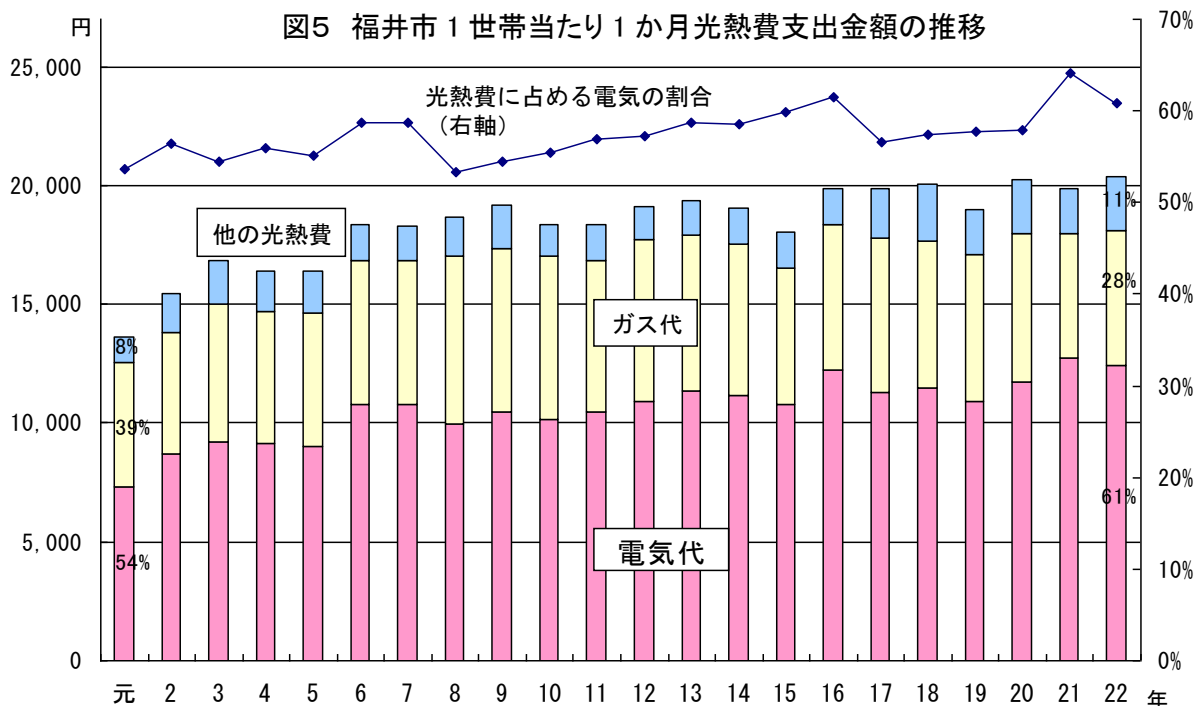
北陸の電気消費量が多い原因としては、家が大きく、部屋数が多いことから、照明、エアコン等の家電が大型化する、数が多くなる等の理由が考えられます。

そこで、縦軸に1世帯当たりの電気の購入量、横軸に1住宅当たりの延べ面積をとって散布図を作成しました(図4)。やはり、家の面積と電気購入量は関係があることがわかります。ちなみに相関係数は0.64で中程度の相関を示します。

※1世帯当たり年間電気購入量は表1同様総務省「家計調査年報」に掲載されているH20～H22年結果の平均
1住宅当たり延べ面積は総務省「平成20年住宅・土地統計調査」の数値を使用

福井の家庭の光熱費に占める電気の割合は約6割

図5 福井市1世帯当たり1か月光熱費支出金額の推移



資料：
総務省
「家計調査」
2人以上世帯、
平成19年以前
は農林漁家世
帯を含まない。
平成20年以降
は農林漁家世
帯を含む

ここでは、総務省「家計調査」をもとに、平成元年以降福井市の家庭におけるエネルギー使用状況がどう変化したかを光熱費の支出状況をもとに追ってみました。

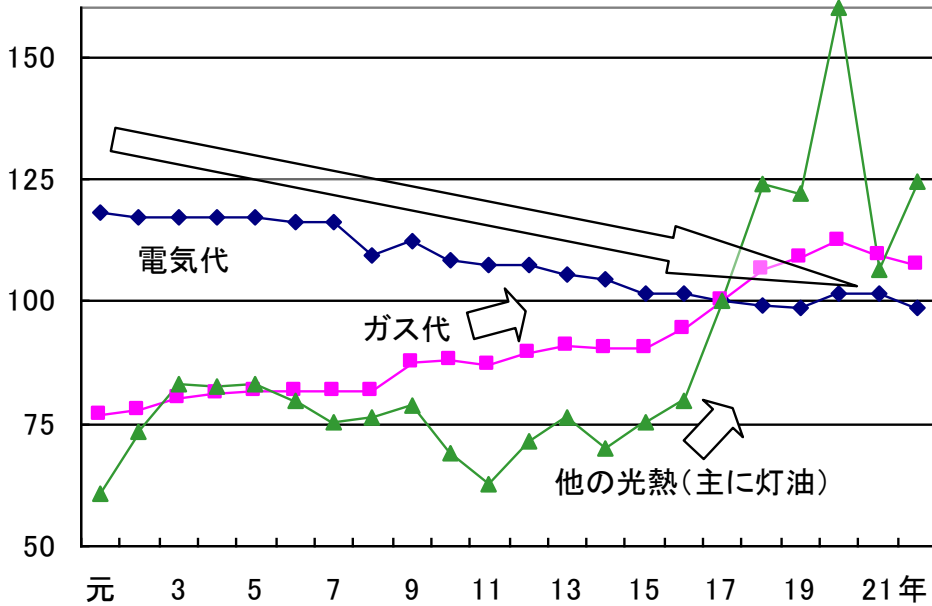
これによると、元年から22年までの間の変化として

- ・電気代が増えてきていること(支出割合54%→61%、【参考】全国54%→58%)
- ・ガス代が減ってきていること(支出割合39%→28%、【参考】全国37%→33%)
- ・他の光熱費(主に灯油)は増えていること(支出割合8%→11%、【参考】全国9%→9%)

この数字を見て、「オール電化が進んでいる割には、20年前と比較して、電気への移行が意外に少ない」、皆さんはそうは思いませんか。全国でも状況は似たようなものです。不思議に思った方は次ページの図6をご覧ください。

電気代は下落、ガス代・他の光熱費は上昇

図6 福井市消費者物価指数の推移 H17=100



資料: 福井県政策統計課 福井市消費者物価指数

次に、福井市消費者物価指数により電気代等の価格の推移を見てみましょう。図6は平成17年の購入価格の平均を100としてその変化を示したものです。

それによると、電気代については、平成元年以降下落傾向にあったことがわかります。

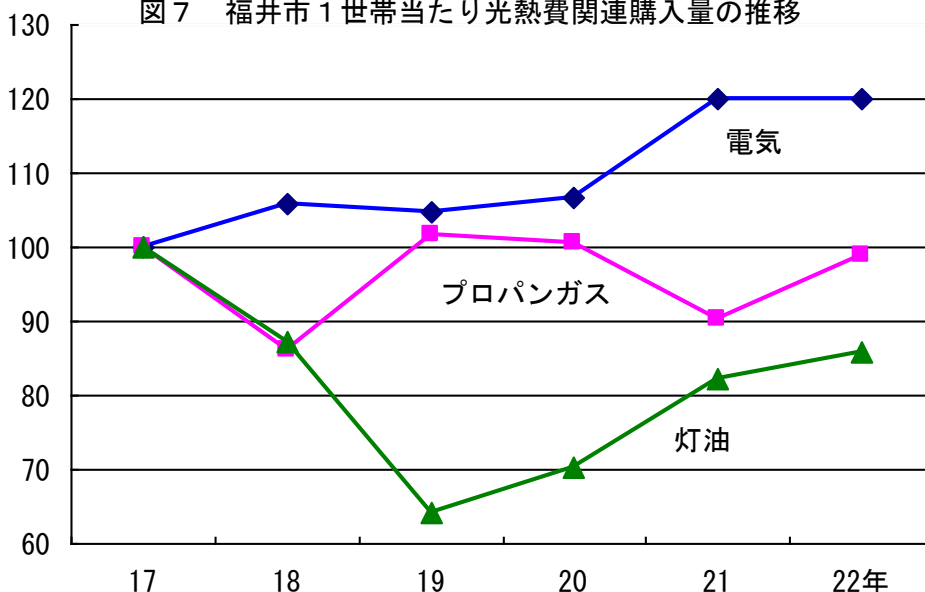
一方、ガス代はおおむね上昇傾向にありました。また、他の光熱(主に灯油)も平成17年~20年の原油価格の高騰による急上昇後、一旦低下したものの全体的には上昇傾向です。

家庭での電気購入量は平成17年以降2割増

上図のような、電気やガスや他の光熱(主に灯油)の価格変化があったため、オール電化が進み家電が増えた割には、家庭の光熱費に占める電気の割合が上がりませんでした。

では、平成に入ってから実際の家庭のエネルギーの使用状況がどのように変わってきたのか知りたいところです。そこで、家計調査では、電気の購入量は平成17年以降しか分かりませんが、その推移をグラフにしました。その際、購入量分かるプロパンガス、灯油と合わせて、平成17年の購入量を100とし、それ以降のそれぞれの購入量の変化を図示しました。

図7 福井市1世帯当たり光熱費関連購入量の推移



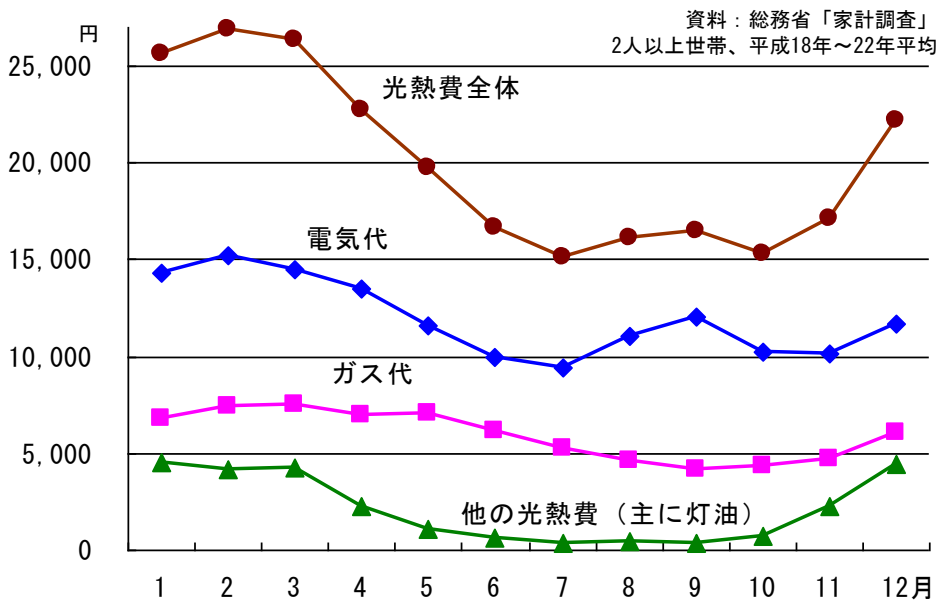
資料: 総務省「家計調査」(2人以上世帯、H17=100)

電気の購入量は、平成17年以降5年の間に約2割増えています。

これに対し、プロパンガスは横ばいです。灯油は暖房が主目的で、購入量は、その年が暖冬かどうかの影響を大きく受けることもあり、変動が大きいですが、平成17年以降、17年を超える量を購入した年はありません。

電気代は冬と夏にピーク

図8 福井市の1世帯当たり光熱費月別支出額



次に、月ごとの光熱費の支出状況を見てみました。

他の光熱費（主に灯油）は、大部分は冬消費されます。また、ガス代は他に比べると変動が少ないですが、夏には減少する傾向があります。

しかし、電気については冬も多いですが、夏場にもピークがあります。電気代の節約には夏場の節電が大事なことが分かります。

（ガスや電気は月ごとに請求されるため、実際の使用月は、支払月の1か月前です。）

福井は、全国的にみて家が広いこともあり、電気の消費量が多くなり、電気代もかさむ傾向があります。大きな家を維持していくためにはお金もかかるということでしょうか。

そこで、これから暑くなり、エアコンが欲しい季節になりますが、家族ができるだけ同じ部屋で一緒に過ごしたり、エアコンの設定温度を上げるなどして、節電に心がけてはどうでしょうか。家計に優しいだけでなく、一緒に過ごす時間が増えれば、家族団らんにもつながります。

また、暑い時間帯にエアコンを切れば、節電効果も大きいことから、昼間に家庭のエアコンを切って、街の涼しい場所に出かけてみてはどうでしょうか。

まずは、この夏のできることから始めましょう。



平成24年2月1日に、
「平成24年経済センサス-活動調査」
を実施します。

我が国のすべての事業所・企業を対象とする
大規模な統計調査です。
どうぞよろしくお願いいたします。

